

仮想郷土 —。ある瞬間唐突に、強烈な懐かしさの感覚が蘇ることはないだろうか。ある音を聴いた時に。音響に包まれた時に。香りと遭遇した時に。その時の感覚は「リアル」なものだけれど、その感覚が呼び覚ました「場所」自体は瞬間に生起しては消える、イメージという名の「ヴァーチャル」な存在だ。フィリップ・ケオー曰く、「ヴァーチャルの原義はラテン語の「virtus（力・エネルギー）」であり、それは現実に対する虚構ではなく、対象のうちに実在する潜在力である。イメージの連関から脳内に広がる「世界」はまさにこの潜在力が生み出したものである。

そもそも私たちは本当にリアルな場所に生きているのだろうか。AI、VR、イマーシブ・オーディオ — それらがもたらすものがたとえ本来の目的から外れたり、エラー・メッセージを返してきたとしても、いまそこにあるテクノロジーがもたらすものがこちらを搖さぶった瞬間、そこには名づけぬ価値が生まれる。人にどて、過去と未来はいつも現在と共に在り、絶えず思考は流れ、空想の光景が現れては消える。人間 vs AI、生の歌声 vs ボーカル

カロイド、生の音 vs 録音された音、人が奏てる音 vs 電子音響 — そこには優劣もなく、本物らしさを目指すというベクトルもない。たとえその表現が途轍もなく歪なものを返してきたとしても、その瞬間にこころが動いてしまったら？ そこにはテクノロジーの誤読が生んだ一つの場所が立ち現れる。

たとえばゲーム空間は仮想のものでありますながら、ある種の「環境」だ。人は五感 + α の感覚を使って、時に分身としての自分の身体の感覚を操りながら架空の世界に入り込む。そこにあるのは「探索」という、人の持つ根源的な欲望。未知の世界に入り込むとき、手がかりとなるのは個々の感覚器官であり、五感を横断するような知覚体験がなされる。本フェスティバルでは、リアルとヴァーチャルの往来するここ両国門天ホールがこうした探索の拠点となる。その場で立体音響と映像と生演奏の息遣いを感じながら体験するのか、あるいはモニター越しに出現するヴァーチャルサラウンドの音響と映像とが作り出す自分の身体内部の空間を探索するのか —。仮想郷土へようこそ。

宮木朝子



宮木朝子 Asako MIYAKI (芸術監督・作曲)

作曲家、空間音響作家。桐朋学園大学、INA-GRM、MOTUSにて作曲、電子音響音楽、アクスモニウム演奏法を学ぶ。東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻修士課程修了、現在同博士課程に在籍。現代音楽を起点に、映像・香り・身体・特異な場などと関係を結ぶ音響制作とその空間展開、奄美群島の聖地におけるフィールドワークやサウンドインストレーションなどを行う。ソロアルバム『Virtual Resonance』は「磨き上げた鮮烈な響きの音像(CDジャーナル)」「雅楽とエレクトロニカ、現代音楽が交差する宇宙レベルのアンビエント(Beams Records)」と評される。ICMC(国際コンピュータ音楽会議)2016、2019、New York City Electroacoustic Music Festival 2019入選、5.1chサラウンド音響作品『Afterimage』によってNTT InterCommunication Center [ICC]「坂本龍一|設置音楽展コンテスト」最優秀賞受賞。コニカミノルタ・プラネタリア東京「星空ラウンジ」にて、22.2chのための空間音響展示『平均律22.2ch Remix』を長期プロジェクトとして継続中。

小阪淳 Jun KOSAKA (アートディレクション・映像)
1994年-2000年SFマガジン(早川書房)装画担当。
SF文学の装画を手がける。2004年-2014年沖縄県
ワンダーミュージアムに作品常設。2006年Sony
ExploraScience(北京)に4作品常設。文部科学省
「一家に一枚宇宙図2007」制作に参加。2007年カンヌ国際広告祭2007Cyber Lions銅賞受賞。2000
年～朝日新聞にビジュアル連載。同年東京都写真
美術館「見えない世界のみつけ方」参加、展示
作品『VIT 2.0』が収蔵される。2018年種子島
宇宙芸術祭参加。2020年Society for Arts and
Technology(カナダ)において宮木朝子との共作
「Echolalia II」が選抜、上映される。



鈴木悦久 Yoshihisa SUZUKI

(空間音響設計・システムプランニング・作曲)
1975年、神奈川県横浜市生まれ。昭和音楽大学で打楽器を、情報科学芸術大学院大学(IAMAS)で作曲を学ぶ。アルスエレクトロニカ2006デジタルミュージック部門ホノラリーメンション賞受賞(オーストリア、Mimiz名義)。コンピュータと自動演奏ピアノを用いたゲームピース「自動演奏ピアノのための組曲」では、第3回AACサウンドパフォーマンス道場にて優秀賞を受賞した。名古屋芸術大学准教授。JSSA先端芸術音楽創作学会運営委員。JSEM日本電子音楽協会理事。



両国門天ホール

〒130-0026 墨田区両国 1-3-9 ムラサワビル 1-1F
tel&fax 03-6666-9491 www.monten.jp

[アクセス]

- JR「両国駅」西口より徒歩5分
- 地下鉄都営大江戸線「両国駅」A4、A5出口徒歩10分
- 地下鉄都営浅草線「東日本橋駅」徒歩10分

下町・両国を舞台にした音楽祭、両国アートフェスティバル(略して RAF)。第7回目は、芸術監督に作曲家・空間音響作家の宮木朝子を迎えて、「仮想郷土-Echolalia, Topophilia-」と題して3つのプログラムを上演。マルチスピーカーによるイマーシブ環境の会場視聴と、VR映像とヴァーチャルサラウンド音響によるオンデマンド視聴により体験いただけます。

盛夏の両国 - 音と光の仮想郷土に集う



Ryogoku Monten Hall presents Ryogoku Art Festival 2022 Director : Asako MIYAKI
**第7回両国アートフェスティバル2022
仮想郷土 -Echolalia, Topophilia-**

芸術監督 宮木朝子

アートディレクション：小阪淳、空間音響設計、システムプランニング：鈴木悦久
ヴァーチャルサラウンド技術アドバイザー：漢那拓也

会場 両国門天ホール (墨田区両国 1-3-9 ムラサワビル 1-1F)
2022年8月9日(火)～8月19日(金)
ライブ&アーカイブ配信あり

主催：一般社団法人もんてん

後援：日本電子音楽協会 (JSEM)、先端芸術音楽創作学会 (JSSA)、日本AI音楽学会 (JAEMS)

協力：ナヤ・コレクティブ

助成：公益財団法人 朝日新聞文化財団



